

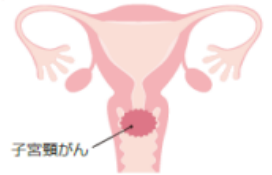
子宮頸がんは予防できる



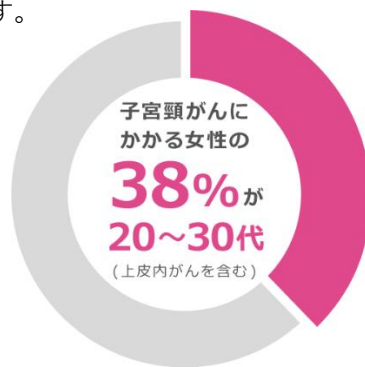
子宮頸がんは、その最大の原因がHPVというウイルス感染によるもので、数年から数十年かけて子宮頸がんになっていくと言われています。そのため、定期健診を行えばがんの前の段階で早期発見・早期治療ができ、その場合の5年生存率は90%以上とされています。（詳細はコラム第10回【子宮頸がん】参照）

若い女性に急増している子宮頸がん

子宮頸がんは、子宮の入り口にできるがんのこと。主にヒトパピローマウイルス（HPV）というありふれたウイルスの感染が原因とされ、子宮頸がんにかかる女性の約**38%**が**20～30代**（上皮内がん含む）です。

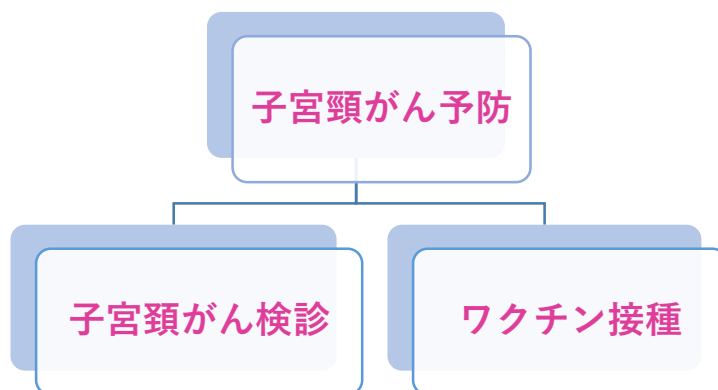


通常がんになる人は高齢者ほど増加しますが、子宮頸がんはこのHPV感染が関与しているため、性活動が活発な若い世代で感染の機会が増える**20～29歳**での罹患が急激に増加しています。上皮内がんを含む子宮頸がんの場合、発症のピークが女性の妊娠・出産年齢と重なることもあり、女性にとって深刻な病気だと言えます。



子宮頸がん初期には症状がありません

子宮頸がんは、通常初期にはほとんど自覚症状が出ないことで知られています。子宮頸がんが進行すると、「性交渉のときの出血」や「生理日以外の出血（不正出血）」、「おりものの増加」などの症状がみられます。このような症状を自覚した際は、早めに医療機関を受診しましょう。そして、自覚症状が出にくいからこそ、**定期的な子宮頸がん検診**で確認していくことと、ヒトパピローマウイルス（HPV）に感染する前に**ワクチン接種**で予防することが非常に重要となります。



子宮頸がん検診は2年に1回定期的に受診することが大切

子宮頸がん検診では、問診、視診、内診と医師が採取した細胞による細胞診を行います。月経時は避けて受診しましょう。

問診

問診では、一番最近の月経・妊娠・出産の経験があるか、月経以外の性器出血などの症状の有無、検診受診状況、子宮頸がんやCIN（がんになる前の状態）で病院に行ったことがあるかなどを聞かれますのであらかじめ準備しておくといいです。



視診・内診・細胞診

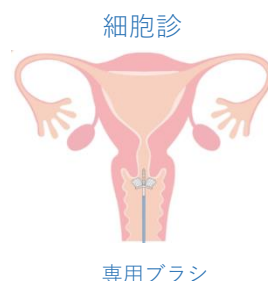


下着をとって、診察台に上がるので、ゆったりしたスカートなどで行くと検診を受けやすいです。診察台はベッドの場合もあります。診察台は、おなかのあたりからカーテンで仕切られています。カーテンの代わりに大きめのタオル等を使うこともあります。

視診は、クスコ（腔鏡）と呼ばれる器具を入れて、子宮頸部を確認します。

内診は、左手の指を膣の中に入れ、右手でお腹を押して子宮や卵巣の大きさを確認します。

細胞診は、医師が子宮頸部から専用のブラシなどで細胞をこすり取ります。個人差があり、器具を入れるときに違和感を感じる人もいますが、緊張せずにリラックスして受けましょう。



結果通知

検診結果は、基本的には2週間～1か月以内に受け取ることができ、郵送で届く場合と、受診して医師から説明を聞く場合があります。

検診結果は、「精密検査不要」か「要精密検査」のどちらか一方です。

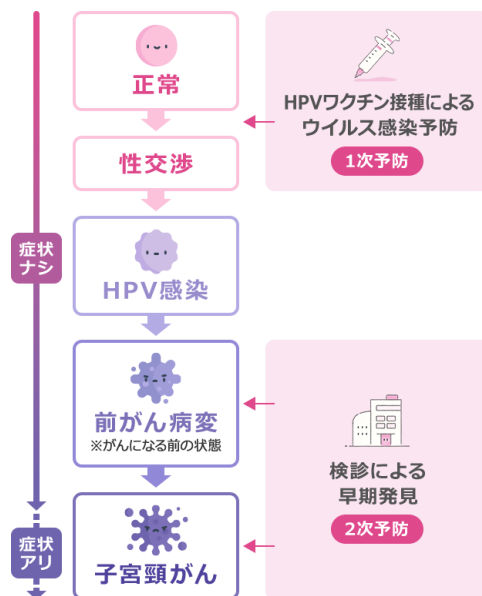
検診だけでは、子宮頸がんを診断することはできません。子宮頸がんやCIN（がんになる前の状態）の診断をするためのより詳しい検査が必要です。精密検査が必要と書かれていても、「要精密検査=がん」ではありません。**1か月以内を目安**に、子宮頸がんの**精密検査**が実施できる医療機関を受診しましょう。（結果後の流れの詳細は健保ホームページ [【子宮がん】参照](#)）

HPVワクチン接種していますか？

HPVワクチンってなに？

HPVワクチンは、子宮頸がんの原因であるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を予防するワクチンです。子宮頸がんのほとんどは、主に**性交渉によって感染するHPVが原因**のため、感染予防としての**ワクチン接種**が大切です。

HPVワクチンには、すでに感染しているHPVを排除したり、子宮頸がんの進行を遅らせたりする**効果はありません**。性交渉開始（セクシャルデビュー）前の接種が、最も効果的とされています。



ワクチン接種と検診は両方必要です

ワクチン接種と検診は役割が違うため、**どちらも受けることが重要**です。まず「1次予防」としてHPV感染を防ぐためのワクチン接種があり、「2次予防」としてがんになる前の段階やがんの初期に発見するための定期的な検診があります。

HPVワクチンを接種した方も、子宮頸がん検診を2年に1回定期的に受診して、早期発見を心がけることが大切です。

公費（原則自己負担なし）でのHPVワクチン接種

HPVワクチンは定期接種の対象となっているため、対象年齢の女性なら公費（原則自己負担なし）で接種することができます。日本で対象となる年齢は、小学校6年生～高校1年生相当です。また、過去に定期接種の機会を逃した方も、同じように公費でワクチン接種をすることができる制度もあります。

定期接種対象者

2024年度に
小学校6年生～高校1年生
相当の女子

2008年4月2日～2013年4月1日生まれ

キャッチアップ接種対象者

1997年4月2日～2008年4月1日
生まれ

かつ、過去にHPVワクチンの合計3回
の接種を完了していない方

キャッチアップ接種は**2025年3月31日**
まで



- 住民票のある市区町村（自治体）からのお知らせをご確認ください。
- 過去に受けた摂取回数や時期により、接種方法が異なる場合があります。
- できるだけ母子健康手帳を確認・持参して、市区町村や医療機関に相談してください。